

第16回空間デザイン・コンペティション審査講評

岡本慶一

提案部門 金賞に選ばれた**森案**は、ビルの狭間にポケットパークを設ける案が多くある中、人工的でありながら静かな輝きのある秀逸な提案。クラッシュガラスの積もった静謐な空間に自然光が降りそそぎ、幻想的。足の裏で踏みしめるザクザクとした氷塊のような感覚は、子どもに返ったような楽しさを感じる。銀賞の**木名瀬案**は、歪みのある黒い強化ガラスの上から、異界を覗き込むようなおどろおどろしさを感じる。積層化された都市の記憶である、暗渠の渋谷川の上をポケットパークとする提案。ガラス質の明るい透明感との対極を示した。水音

まで聞こえるともっと刺激的では、銅賞の**佐伯+夏目案**は、数ある「花」案の中で、いちばん愛らしいポエティックな提案。雨水の取り込み方、通気・排水方法に工夫を要すも、1個のガラスブロックの中にポケットパークを見立てる発想が秀逸。

作品例部門 日本電気硝子社製品の特性を生かし、新たな可能性を広げる作品で、さらに建築としての完成度の高い作品を選定した。

金賞の「**ミレニウム・パビリオン**」は、エチオピアの伝統的な円形住居をリロケーションしたもの。石積み

のハイサイドライトとすることで、控え目に光を取り入れ、パビリオンとしての機能を満たしている。屋根を軽やかに浮かせて静謐な空間をより神秘的にまとめており、群を抜いた作品であった。銀賞の「**株式会社 共栄鍛冶所 新鍛造工場**」は、ガラスブロックの二重積みによる大きな遮音効果と採光の確保という機能性もさることながら、陰影のある光の質に新しい空間の可能性を感じる。銅賞の「**慶應義塾日吉キャンパス 協生館**」は、スタンドの段床の蹴上げ部分のガラスブロックを、地下の水泳場のハイサイドライトとして利用する、技ありの提案。

千葉学

提案部門 ガラスは、普段は透明でつるりとした表情をしているが、何かの拍子に割れてしまうと、粉々に飛び散って、まったく別の質感と表情を露にする。そんな表裏一体となったガラスの魅力とポケットパークがどう結びつくのかという点に注目した。金賞の**森案**は、クラッシュガラスで都市のありふれた隙間空間を埋め尽くす提案である。クラッシュガラスを踏みしめる触感、ガラスの軋む音、そこに反射してモザイク状に拡散する光は、ありふれた都市空間に潜む非日常性を見事に顕在化させている。銀賞の**木名瀬案**は、都市の裏空間と化した渋谷川

をアクセス可能な場所に転化する試み。黒いガラスの物質感によって、表になりきることのない裏と表の不安定性を維持している点が魅力である。銅賞の**佐伯+夏目案**は、ガラスブロックひとつひとつに小さな庭を埋め込む作品だが、表通りに面したパブリックな場所に私性を持ち込むという両者の落差が痛快である。これらに見られる日常性と非日常性、裏と表、あるいはパブリックとプライベートといった関係性の揺らぎは、一瞬にして表情を変えるガラスのイメージにも通じるが、ポケットパークの都市における本来の役割を見事に突いているとも思った。

作品例部門 金賞の「**ミレニウム・パビリオン**」は、儂い光とパナキュラーな建築との意外な組み合わせが新しい。銀賞の「**株式会社 共栄鍛冶所 新鍛造工場**」は、日常的に使われているガラスブロックの重ね合わせという単純な方法だけで、まったく新しい内外の関係性を生み出している点が魅力だ。銅賞の「**慶應義塾日吉キャンパス 協生館**」は、階段が単なる動線空間ではなく、むしろ新しい境界面として機能することの可能性を、ガラスブロックによって提示している点が秀逸である。ガラスという素材の物質性は、まだまだ空間の可能性を切り開くと感じた。

西沢立衛

応募総数が多く、提案部門、作品例部門ともども審査がたいへんで時間がかかった。しかしその分、素晴らしい提案が多く入選したように思う。

提案部門 応募案が非常に多い中、みごと金賞に輝いた**森案**は、ビルとビルの隙間にガラスの破片が山のように積層されていくというものである。秩序だった都市の隙間に、まるで雪崩のような無秩序なカタストロフが描かれるように、ある鋭さを感じた。銀賞の**木名瀬案**は、暗渠として封印された渋谷川を部分的に発掘していく話で、透明に反射するガラスでなく、光を吸収する不透明ガラスとい

う着眼点が評価された。都市を横切っていくアナーキーさも印象に残る作品である。銅賞の**佐伯+夏目案**は、花一輪をガラスブロックに入れて公共空間に沿いファサードをつくるという案で、非常に等身大で日常的な提案。ドローイングのうまさでは今回随一だった。

作品例部門 最も印象深く記憶に残ったのが、「**ミレニウム・パビリオン**」で、ほぼ満場一致で金賞に輝いた。放棄されたエチオピアの民家にグラソアが使用された作品で、歴史的で古いものと、技術的で新しいものという相反する両者が、有機的に

統合された姿が素晴らしいと感じた。銀賞を獲得した「**株式会社 共栄鍛冶所 新鍛造工場**」は、ガラスブロックを用いて、明るさを確保しながら遮音性の高い空間をつくり出すというもので、オーソドックスなアプローチと明快なコンセプトが評価された。銅賞の「**慶應義塾日吉キャンパス 協生館**」は、上部のトラック競技場客席部分と、下部のプール空間とを、ガラスブロックによって連続させた提案で、ダイナミックな空間構成とガラスブロック素材とがみごとに関係し合った好例として記憶に残った。

三宅雅博

第16回空間デザイン・コンペティションは、おかげさまで提案部門708件、作品例部門121件、合計829件と、前回は大きく上回る応募をいただくことができました。ここまで盛大なコンペティションに育てていただいた関係者各位、ならびに第1回～第16回の応募者の皆様方に深く感謝申し上げます。**提案部門** 金賞の**森案**は、ビルの狭間に降り積もる雪に見立ててガラス粒を敷き詰めたきらきら光る「幻想的な空間」を、銀賞の**木名瀬案**は、強化ガラスでつくられた地面を通して地下の暗闇を流れる

川の気配を体感する「神秘的な空間」を、銅賞の**佐伯+夏目案**は、街中で見かけるガラスブロックの中に小さな草花を咲かせた「癒される空間」をつくる提案でした。それぞれがガラス質の異なった特性をうまく表現しており、そこが「幻想的な空間」、「神秘的な空間」、あるいは「癒される空間」であることを容易にイメージできる優れた作品でした。

作品例部門 金賞の「**ミレニウム・パビリオン**」では、古民家の伝統的な石積みの壁のハイサイドライトとして重厚感あるグラソアを、銀賞の「**株式会社**

共栄鍛冶所 新鍛造工場」では、ハイレベルな遮音を必要とする防音工場に高い遮音性能を持つガラスブロックの二重積み、銅賞の「**慶應義塾日吉キャンパス 協生館**」では、地下水泳場のトップライトとハイサイドライトに自然光を柔らかく採り入れるガラスブロックを使用されています。それぞれが弊社建材の特長を十分に熟知した使い方をされており、受賞にふさわしい作品でした。今後も、空間デザイン・コンペティションを通じて、ガラス建材製品の効果的な使い方が数多く提案されることを期待します。